

第3回宮崎県読書活動推進委員会 協議概要

発言者	発言内容
○ 読書活動推進に係る次年度に向けた取組について ※進行:竹内委員長	
黒木委員	○ 「電子書籍」は読書という位置付けでよいか。
事務局	○ 「電子書籍」も読書と認識している。
黒木委員	○ 電子図書館サービスもよいが、並行してメディアリテラシーの問題についても考えていくべきではないか。
事務局	○ 現在学校でも、多少の取組の差はあるが、どこの学校も情報の学習の一環で取り組んでいる。
議長	○ 電子図書サービスの導入に向けて、どんな本があるのか、どう取り扱うかという点で、意見をいただきたいが、今回、学習に役立つ図鑑や事典、読み物資料が入る予定となっているが、具体的にはどのようなものか。
事務局	○ 内容については、調べ学習や探究活動等の調べるときに活用できるようなものを想定している。また、例えば6年生の国語で宮沢賢治の教材があるが、その単元での並行読書等で、宮沢賢治に関連している本を読むようなことも、電子書籍で可能になってくると考えている。
黒木委員	○ 今回導入する電子図書館サービスは、アプリを使って読むものなのか。
事務局	○ 契約する業者によって異なる。アプリを使うものもあれば、ブラウザで読むものもある。
議長	○ どのような本を入れるかはターゲットによって変わる。広いターゲットで選書を行うと、専門的な内容を必要とする人や、年齢や障がいによってアクセスしにくい人が、読みにくくなる。一方、インクルーシブに選書を行うと、たくさんの人は読めない。
事務局	どちらを優先するかは難しいが、今回の趣旨からすると、後者のインクルーシブな発想の方がよいと思う。
事務局	○ この電子書籍については、議論が始まったばかりで、今後どのように導入するかについて調査研究を進めている段階である。
事務局	県立図書館から離れてお住まいの方も利用ができるような利便性向上や読書バリアフリーの視点から、こんな使い方がいいのでは、こんな本が読めるといいのではといった、ご意見をいただきたい。
竹下委員	○ 以前勤務していた大学の図書館では、電子書籍を導入しており、就職活動に関するものや、学生が使いやすい語学学習のものを入れていた。参考資料など重さがあり携帯することが難しかったり、持ち出し禁止の資料など、電子書籍だったら、就職活動時にも手軽にアクセスしたりすることができる。紙であれば、他人が2週間借り

	<p>ていたらその間読むことができないが、電子であれば、その人が使っていないければ読むことができる。また、禁帯出の本も外から利用できるといった利便性がある。そのような本を選んで購入していた。</p>
寺田委員	<p>○ 宮崎県では本屋さんが無い市町村が増えている。書店も図書館もない所には、試験的に、本はないが電子書籍を見ることができパソコンを設置し利用できるようにしてはどうか。そのような地域住民に優先的に電子書籍の ID を配ってはどうか。</p>
中山委員	<p>○ 学校の図書室では、昼休みに長蛇の列ができる。それが、電子書籍が入ることによって一気に解消できると思うとありがたい。</p> <p>「学校では教えてくれないシリーズ」や「心がほっと温くなるシリーズ」、「お金の使い方がわかっちゃうシリーズ」など、子どもたちが、今読みたいと思っている本があったらいいと思う。</p>
議長	<p>○ 大学を含めたいろんな連携という点で意見を伺いたい。</p> <p>例えば、宮崎大学の図書館に読み聞かせ関係で絵本も比較的あるが、地域の方も借りられるということあまり知らない。国際大学には、指導書や教育実習で使えるような資料がたくさんあるが、あまり借りられていない状況である。</p> <p>このような連携等も含めて、何か意見があれば伺いたい。</p>
相良委員	<p>○ ある先生が必要な本を探すときに、県立図書館のネットワークを使っても借りられないものがあり困った。この大学は、このようにしたら借りられるということが分かるものがあると助かる。</p>
事務局	<p>○ 先日、宮崎学園短期大学の図書館に伺い、図書館長と話す機会があった。宮崎学園では、子ども向けの絵本や外国語の本などとても充実したものがあり、その図書館によって特色があることをあらためて理解した。</p> <p>大学側も、もっと地域と連携してきたいと話されており、地域の方が気軽に利用できることを知っていただくことが大切だと感じた。</p>
議長	<p>○ 読書活動に係る人材育成の点で、「学校図書館の充実をどう図るか」と「読書バリアフリーに関する理解をどう促進していくか」の2つの柱があるが、この点で意見を伺いたい。</p>
相良委員	<p>○ 今回、県立図書館が2回の読書バリアフリーに関する研修を行っており、参加された先生からとても為になったと聞いた。ぜひ来年も県立学校にも声をかけていただきたい。また、オンラインだったために参加しやすかった。</p>
飽田委員	<p>○ 私もこの県立図書館のスキルアップ事業は、多くの方のバリアフリーに対する意識づくりにつながる取組だと感じた。これを継続して実施することで、それぞれの現場での次のステップにつながると</p>

	<p>いい。図書館に行けば、こんなサービスや受け入れ体制がある、図書館に行けなくても電子書籍が利用できるという情報を、どのように当事者の方につないでいけるのかという部分を、自分達も考えていきたい。</p>
内勢委員	<p>○ 読書バリアフリーに関する研修は、医療福祉関係者や事業所などの職員にも案内がなされているのか。 そのような方々にも有意義な研修であると思うが。</p>
事務局	<p>○ 本研修は、当初は県内の公立図書館職員を対象にして計画したものであったが、講師の意向があり、県立学校の図書司書の職員にも案内をした。今後そのようなニーズがあれば、障がい福祉課などの協力を受けながら、案内することも検討していきたい。</p>
大賀委員	<p>○ 県内3か所に視覚障がい者を対象にした図書館があるが、遠方だと、対面でいろいろな機材の使い方を伝えることは難しい。それが、地域の公立図書館でもある一定の支援が受けられるとなると、図書館が誰にとっても利用できる図書館になり、足を運びやすい。さらに視覚障がいに限らずどの障がいがある方も、実際に足を運ぶことが社会参加に繋がり、障がい理解が進むと思う。また、地域で障がいのある方と繋がりが生まれることで、地域の応援団のような存在が増えて心強い。</p>
議長	<p>○ 全体を通して何かありますか。</p>
林田委員	<p>○ 2つ考えていることがあり、1つは「ネットワークの難しさ」。高齢者団体のおはなし会の方から誘われたが、なかなか難しかった。今後やっていきたいテーマだと考えている。 もう一つは、「本のよさ」とは、そこから何を読み解くかとか、どう感じたとかではなく、いや、それは違うのではと言いつつ、双方向に関係が深まることではないかと考えている。</p>
竹下委員	<p>○ 障がいのある方の図書館利用やビブリオバトルの体験会みたいなものがあってもいいのではないかと考えている。</p>
黒木委員	<p>○ 地域の公民館に障がいがある方が本を借りに来ることができるとよい。</p>
議長	<p>○ 図書館ではないが、本読む場所という「場所」がもっと増えてもいいと考えている。本読む場所が必ずしも部屋でなくてもよいという発想があってもよい。これが「ひなたライブラリー」につながるとういのではないかと考えている。</p>
林田委員	<p>○ 新しくなった日向市役所のテラスにおいてあるベンチには、子どもたちが寄ってくる。管理のこともあるが、気楽なスペースがよい。</p>
議長	<p>○ アンバサダーについてどのような活用法があるか、どんなところでやってもらいたいなど、何か意見をいただけないか。</p>

中山委員	○ 聞くならオンラインではなく、ライブで聞いて欲しい。本当に心がときめく。子どもたちだけではなく、地域の方を巻き込んで行って欲しい。感動すると思う。
寺田委員	○ まつり宮崎などの祭りで実施してもいいのではないか。宮崎の祭りには読み聞かせがセットで行われるというイメージが生まれるとおもしろい。
議長	○ 読書県みやぎの県民への周知をどうするかについて、何かアイデア等がありましたらお願いします。 本を読まない人に「え、本を読まないんですか。」と驚いてみるのもおもしろいかも知れない。
黒木委員	○ 家庭環境もある。本を読めない環境の家庭もあると感じている。
寺田委員	○ 本を読まない人が、本を読む人に対しどんな質問をするかという と、話題になっている本に対し「これっておもしろいの？」と聞 くと思う。そこで例えば、米良さんに今月一番売れた本は、これです。 みたいなことをずっと言い続ければ「その本って面白いの」って、誰 かに聞くのではないだろうか。そこで読んで、また読んでみようか なという風につながるのではないかと思う。きっかけが大切。
議長	○ パワープレイミュージックのように、なんども話題にしてみると いうことですね。 ありがとうございました。時間になりましたので、以上で終わります。